

<国内情勢>

パンデミックの山場は…これからやってくる

「日本人の感染者数は何人か」

新聞を開いても、テレビをつけても、新型コロナ肺炎のニュースばかりが目につく。

これまで出されていた「**外出禁止要請**」は無視されることも多く、首を傾げた人も多かった。連日の感染者拡大に、政府はついに4月7日、特別措置法に基づいた「**緊急事態宣言**」を発表。期間は1カ月程度で、5月の連休中の外出を控えさせることが目的のようだ。

しかしこれも本質的には要請に過ぎない。不要不急の外出の自粛を求めたものだが、公共交通機関を止めるなどの措置はとらず、経済社会活動を可能な限り維持する姿勢を保っている。政府の対応はナマぬるい。後手後手に回っている。

もっと強い姿勢を見せるべきだとの意見もあるが、個々人の主張が強い今日の日本では、強制力をもつ法体制をつくることは難しい。あのオウム事件ですら破防法が適用されなかったほどだ。「**平和ボケ**」とでもいうのだろうか、そんなナマぬるさが、日本国の隅々にまで行き渡っていて、いつも歯がゆい思いをさせられる。

そのナマ温さを逆手にとって巧みに勢力を広げ、カネを回す連中も少なくはない。

今回の新型コロナ肺炎騒動の裏にも、不透明で理解し難い物語がいくつかある。

例えば新型コロナに感染した患者数だ。厚生労働省は「**新型コロナウイルス感染症の現在の状況**」を毎日公表している。4月8日には前日（4月7日）時点での感染者数が発表された。

その数字は「**国内感染者事例3,817人**（前日比+248人）、**国内感染者総数のうち日本国籍者1,846人**」となっている。

4月冒頭一週間の「**新たな国内感染者数**」を、厚労省の発表した数字で見ると、こうなる。

4月1日	新たな感染者数	220人。	うち日本国籍者	36人
4月2日	新たな感染者数	202人。	うち日本国籍者	198人
4月3日	新たな感染者数	235人。	うち日本国籍者	65人
4月4日	新たな感染者数	314人。	うち日本国籍者	163人

4月5日 新たな感染者数 336人。うち日本国籍者 88人
4月6日 新たな感染者数 378人。うち日本国籍者 109人
4月7日 新たな感染者数 248人。うち日本国籍者 135人

新たな感染者数のうち、日本国籍が占める数は思いのほか少ない。

この状況に「**ネット右翼**（通称『ネトウヨ』）」と呼ばれるグループが強く反応。

「**ここはどこ国なのでしょうか**」といった書き込みがなされ、外国人排除を叫ぶ声が拡大した。すると間髪を入れず、この書き込みが間違っているとの指摘が大々的に扱われた。

「**厚労省に問い合わせたところ、日本国籍としている数値は、はっきりと確認できたものに限っており、大半は国籍を確認中で必ずしも外国籍というわけではない**」というのだ。

この訂正情報に「**通称ネトウヨ**」たちは沈黙し、騒ぎは収まった。その話を後から知った私も、訂正情報に納得したものだった。だが、よく考えると、どこか変だ。日本は「**国民皆保険**」である。日本人は誰もが保険証を持っている。永住外国人（その99%は在日朝鮮・韓国人）も多くが保険証を持っている。病院に行った時点で国籍がわかる。事故や急病で突然担ぎ込まれ、保険証を提示できなかった場合を除き、国籍が不明なことは殆どない。

厚労省は「**大半は国籍を確認中**」と答えたというが、確認結果は発表していない。どう考えても、かなりの数の日本国籍を持たない人が「**新型コロナウイルス**」にかかり病院に入っている。

新聞やテレビでは「**新たな感染者数**」と「**合計感染者数**」が発表される。多くの人は、その数字を見て感染拡大にため息を漏らす。発表すべき数字はそれだけで十分なのに、厚労省は何故わざわざ「**感染者のうち日本国籍**」の人数を発表し続けるのだろうか。

厚労省は「**何かを訴えたい**」のかもしれない。

考えられることは「**医療難民が、日本に来ていること**」だ。

「**新型肺炎騒動で暗躍する火事場泥棒**」

腑に落ちない話は他にもある。緊急事態宣言はなぜ遅れたのか。

冷静に眺めてみると、緊急事態宣言を「**出せ…出せ**」と煽る勢力と宣言を押しとどめる勢力が、水面下で綱の引き合いをしていたように思える。生命に関わる問題でありながら、新型コロナは様々な駆け引きの材料に使われてきた。

米中貿易戦争の場でも、中国国内の権力闘争の場でも、新型コロナは駆け引きの材料だった。昔から事件や事故・災害などが起き、当事者たちが苦しんでいる最中に、その禍（わざわい）をエサと見立てて群がるハイエナたちが現れる。火事場泥棒という連中だ。

今回も医療関係者や特定の組織が緊急事態宣言の早期発令を求め、一方、永住外国人や盛り場に巣食う人々が規制を嫌う構図が見えてくるが、誰がどのように動き…カネがどこに出回るのか判断しにくい。もっと巨大なハイエナがいるようにも思える。

日本のカネを狙う**「外国資本」**だ。米国が自国の混乱をネタに、日本からカネを巻き上げようと企んだ可能性がある。今回の緊急事態宣言は、米国に対して**「日本も大変なので、そちらにカネを回す余裕はありません」**と表現した日本的な逃げ方だったようだ。

それを歓迎したのだろうか新型コロナ肺炎に右往左往し、世界経済が失速するという状況下、緊急事態宣言を機に東京市場の株価が**756円**も上がり（4月6日）、翌7日にも更に**370円**、8日に**400円**以上値上がりしている。これが何を意味するか考えるべきだろう。

政府は新型コロナ肺炎の拡大に対応するため**「108兆円の経済対策」**を実施すると発表した。この108兆円の中には、所得が大幅に減少した世帯や、中小企業への現金給付…或いは納税猶予…無利子融資が含まれるという。

低所得者世帯には**30万円**の現金給付、売り上げが急減した中堅・中小企業には**200万円**、個人事業者には**100万円**を支給。その総額として**「6兆円」**を見込んでいる。

だがちょっと待て…。低所得者層への現金給付や中小企業、フリーの個人事業主の支給で6兆円。政府が用意した総額108兆円から考えると、まだ**「102兆円」**が残る。

報道記事をじっくり読んでいくと、**「新型コロナウイルス感染症対策として1兆円以上」**や**「民間企業の資金繰り支援策」**などなど並んでいるが、無数に並ぶ経済対策費の裏で誰かがほくそ笑んでいる可能性が高い。細かな部分は見えてこない。だが世界全体を俯瞰すると米国もヨーロッパも、この新型肺炎騒動で悲惨な状況に陥っている。

米欧の経済が立ち直るには、かなりの期間を要する。中国も酷い。中国経済が崩落し、国家が分裂する可能性もある。火事場泥棒になるつもりはないが、この新型コロナ肺炎騒動から最初に抜け出すのは、日本の可能性が高い。それが見えてくれば世界の投資家たちは、資金を日本に移動させるだろう。東京市場が値上がりしている背後には、そんな事情があると思われる。日本はこの先、世界唯一のバブル市場になるかもしれないのだ。

「本物のパンデミックが姿を現すとき」

新型コロナ肺炎騒動は世界中を巻き込み、数カ月で世界情勢を一変させた。

それでも日本は、首都圏など七都府県に出された緊急事態宣言で、感染者数の爆発的増加は抑えることができ、徐々にではあるが以前の生活が取り戻される。そう思っている方も多いだろう。だが、本当に元の生活に戻れるだろうか。

かなり以前から、2020年前後に世界をパンデミック（世界流行の疫病）が襲うとの推測が流されていた。怪しい霊能者や予言者の中にもそんなことをいう者もいたが、真つ当な学者もパンデミックを口にしていた。その根拠として「**5G（第五世代通信システム）**」による電磁波やウイルスそのものの進化、或いは生化学兵器があげられていた。

1720年の**ペスト（黒死病）**以来、1818年の**コレラ**、1918年の**スペイン風邪**と、世界は100年ごとにパンデミックに襲われ、ときに1億人以上が死んでいる。中国の総人口が半分になったり、イタリア北部が完全に壊滅したりと過去のパンデミックは凄まじいものだった。4月8日現在、新型コロナ肺炎に感染した人は全世界で140万人を超え、死者も8万人超となった。感染者も死者もどんどん増え続け、最終的には数千万人が感染し死者も百万人前後になるとの悲観的な予測もある。しかし冷酷にいうと、たいした数ではない。

ブラジルのボルソナロ大統領は、新型コロナ肺炎について「**ちょっとした風邪にすぎない**」「**どうせ誰もがいつか死ぬんだ**」と暴言をはいているが、彼の言葉の一部は真実でもある。

冷静に考えると今回の新型コロナ肺炎は、歴史的なパンデミックと比べて被害はケタ違いに小さい。学者や霊能者が予言した「**百年に一度**」のパンデミックは、もっと巨大な破壊力を持つ。ということは、本物のパンデミックがこれから出現する可能性がある。

しかもそれは、単なる想像ではない。既に出現している可能性もあるのだ。

中国雲南省の保健当局は3月末に、「**急死した労働者からハンタウイルスが確認された**」と発表した。この労働者は、発症から僅か3時間で呼吸困難を起こして死亡したという。

ハンタウイルス感染症は、第二次大戦中に日本軍の兵士が中国大陸で感染し死亡した例が記録に残る。また朝鮮戦争のときに、国連軍兵士3000人が感染したとの報告もある。

肺が炎症を起こし呼吸困難となって、発症から死亡までが短時間なウイルス疾患として恐れられている病気だ。また南京医科大学の報告例の中には、新型コロナ肺炎の重症者の中に、感染直後に「**心疾患を引き起こす**」例があり、これが新型コロナの新種ではないかと疑う医師もいる。そもそも新型コロナウイルスの正体は、まだ解明されていないのだ。

当初から「**進化する可能性がある**」といわれている新型コロナ肺炎が、本物のパンデミックになって人類に襲いかかる可能性もある。未知のパンデミックに立ち向かうことができるのは、個人それぞれが持つ免疫力しかない。

マグロや大豆製品などの良質なタンパク質・発酵食品などで体調を整え、なにより早寝早起きを心がけ、免疫力の向上に努めようではないか。■